

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象として平成19年度から実施されています。調査が開始された当初、網走市の平均正答率は、全国平均を10ポイント以上回る教科がありましたが、全国との差は年々縮まり、近年は一部の教科において全国平均を上回る状況が見られるようになりました。

改善の傾向にある中でも、学力・学習状況ともに改善を要する課題が見られることから、網走市子どもたちの力をより一層発揮させられるよう、教育委員会、学校、家庭、地域が連携・協働した取組を進めてまいります。

網走市教育委員会として、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組を充実させるため、網走市学力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果について、今後の方策とともに公表いたします。

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施日 平成31年4月18日(木)

3. 調査の対象・児童生徒数

- 小学校第6学年 9校 238名
(網走小、中央小、西小、南小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小、呼人小)
- 中学校第3学年 6校 256名
(第一中、第二中、第三中、第四中、第五中、呼人中)

4. 調査の内容

- ① 教科に関する調査(小学校:国語、算数 / 中学校:国語、数学、英語)
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容※上記を一体的に問う。
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

2. 結果の概要

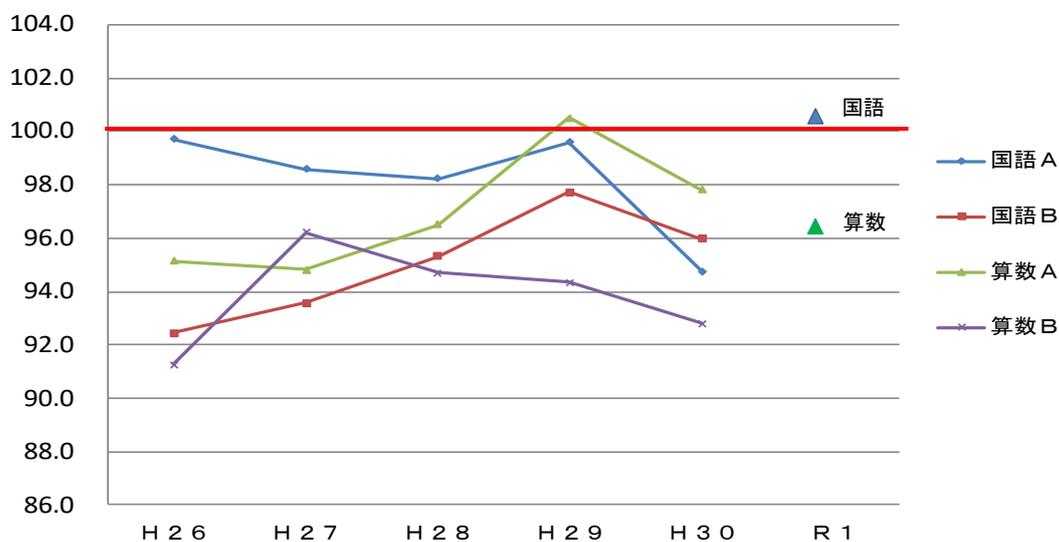
(1) 平均正答率・平均正答数

教科		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
問題数		14問	14問	10問	16問	21問
平均 正答率 (ポイント)	網走市	64.1	64.3	70.4	53.0	49.8
	北海道	62.8	64.5	72.1	58.1	54.2
	全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
北海道平均との差		+1.3	-0.2	-1.7	-5.1	-4.4
全国平均との差		+0.3	-2.3	-2.4	-6.8	-6.2
平均 正答数 (問)	網走市	9.0	9.0	7.0	8.5	10.5
	北海道	8.8	9.0	7.2	9.3	11.4
	全国	8.9	9.3	7.3	9.6	11.8
北海道平均との差(問)		+0.2	0.0	-0.2	-0.8	-0.9
全国平均との差(問)		+0.1	-0.3	-0.3	-1.1	-1.3

※平均正答率～各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

※ 中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値。

(2) 網走市《小学校》の平均正答率の推移

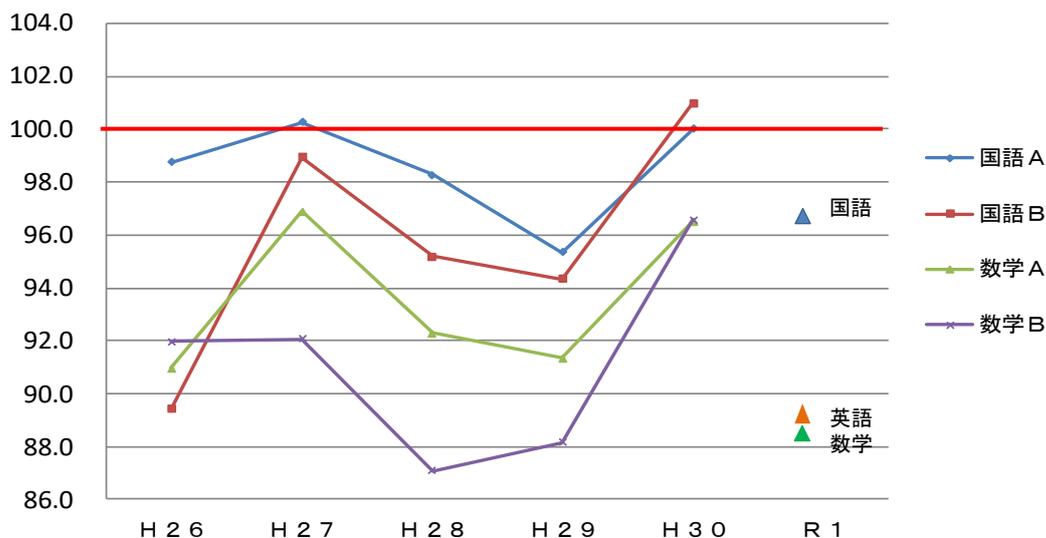


小学校	H26	H27	H28	H29	H30	R1
国語A	99.7	98.6	98.2	99.6	94.8	100.5
国語B	92.4	93.6	95.3	97.7	96.0	
算数A	95.1	94.8	96.5	100.5	97.8	96.5
算数B	91.3	96.2	94.7	94.3	92.8	

※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

※国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

(4) 網走市《中学校》の平均正答率の推移



中学校	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
国語 A	98.7	100.3	98.3	95.3	100.0	96.7
国語 B	89.4	98.9	95.2	94.3	101.0	
数学 A	90.9	96.9	92.3	91.3	96.5	88.6
数学 B	92.0	92.1	87.1	88.1	96.6	
英語						88.9

※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

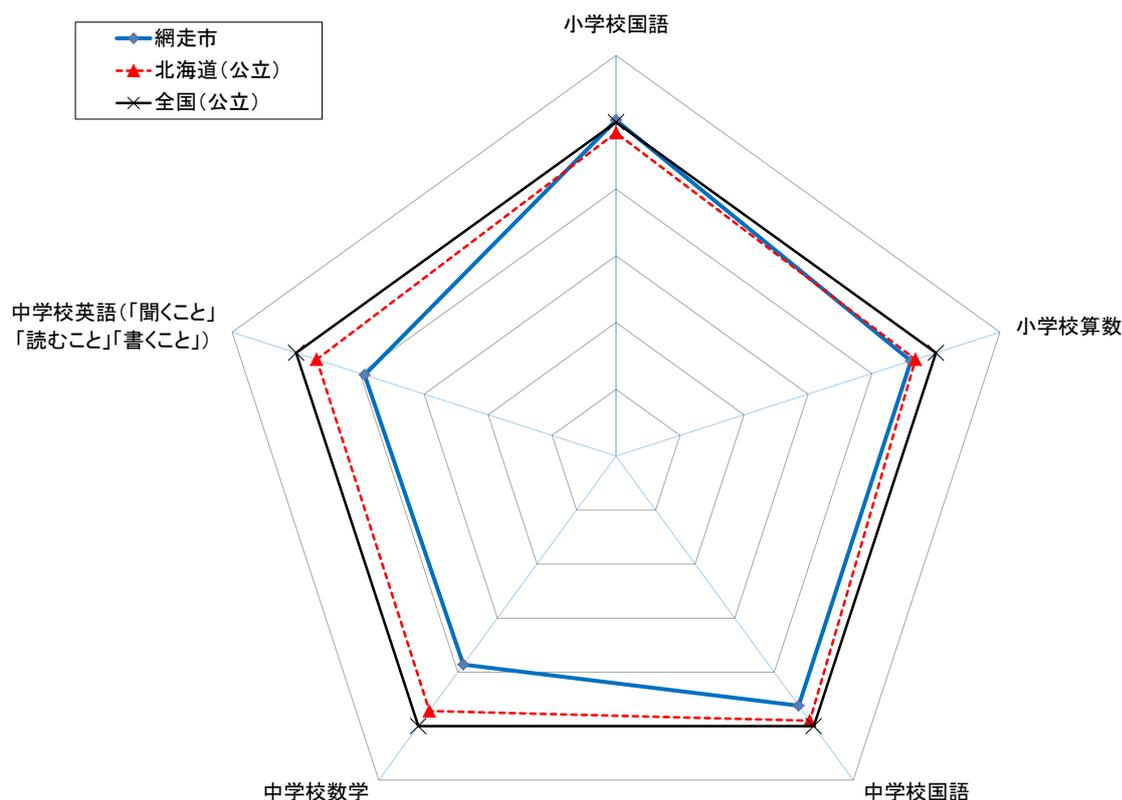
※国語と数学は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

※英語は平成31年度(令和元年度)から実施。

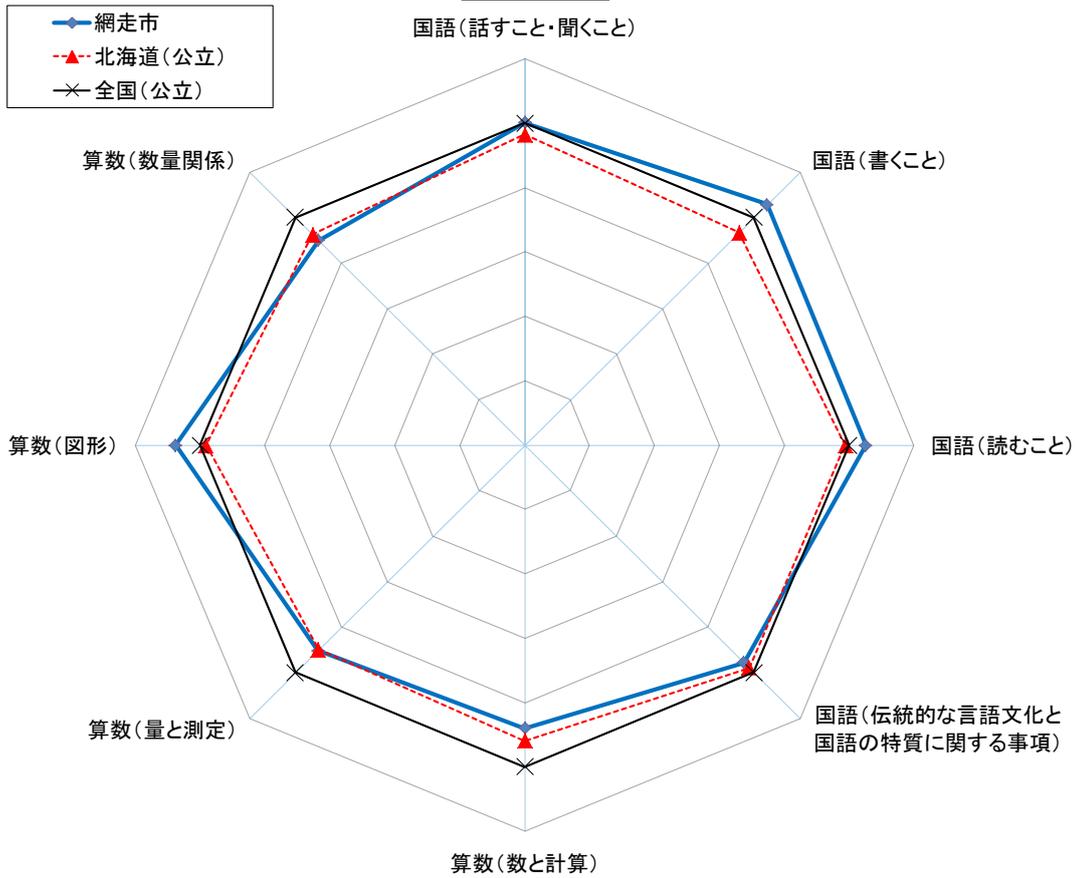
(5) 各教科領域別の状況 (レーダーチャート)

各教科領域別の状況

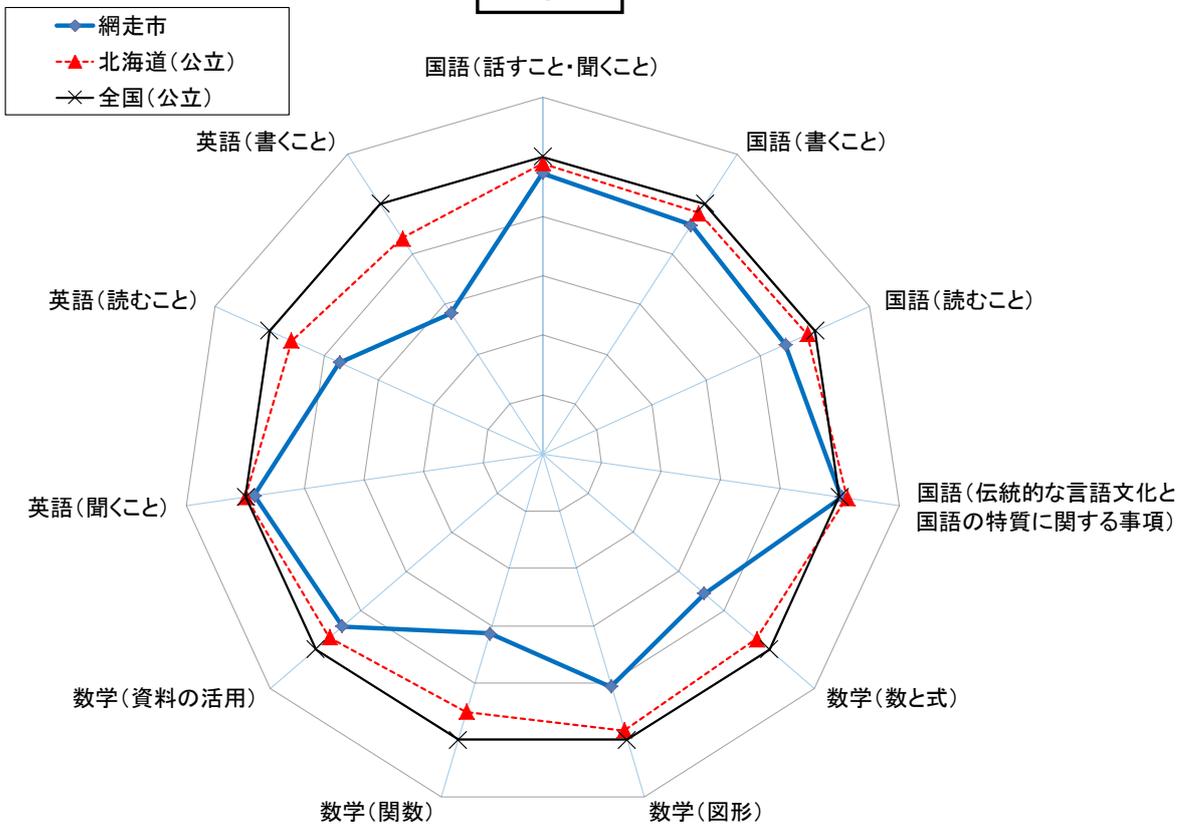
全教科(小学校・中学校)



小学校



中学校

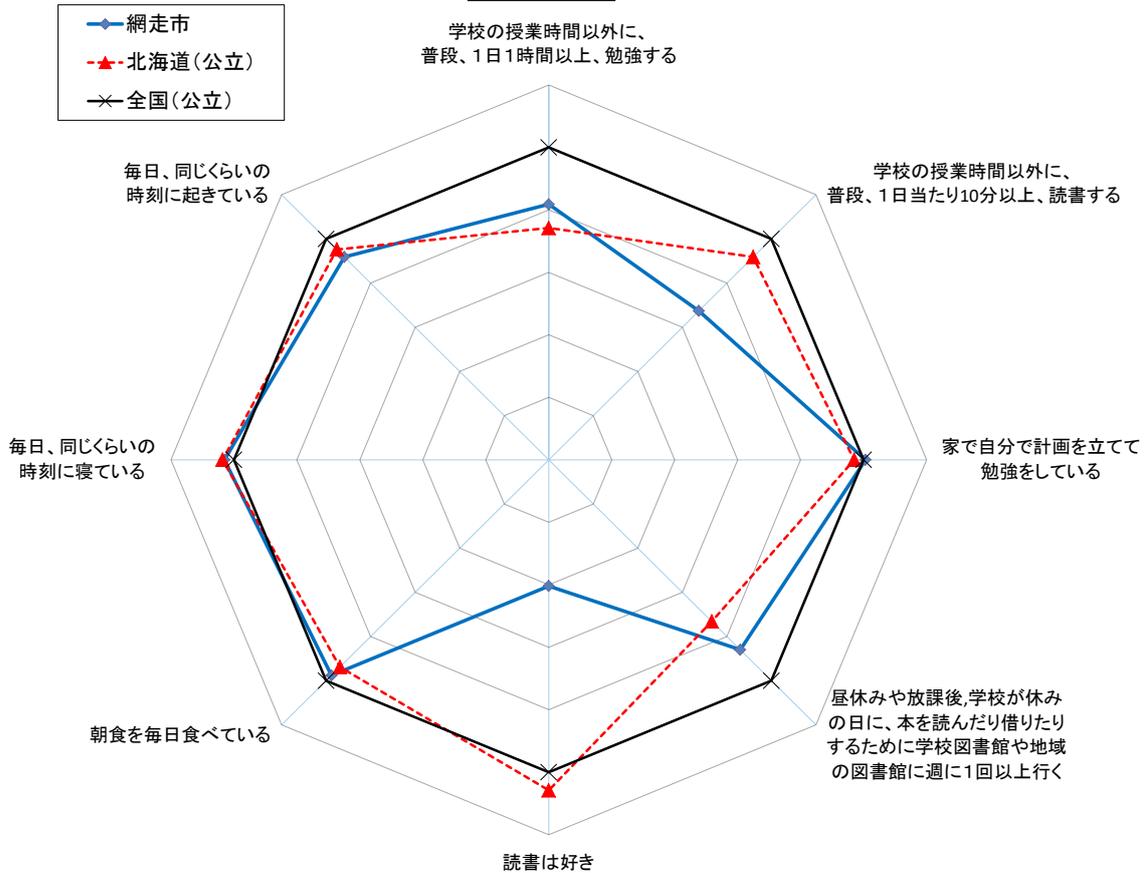


教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

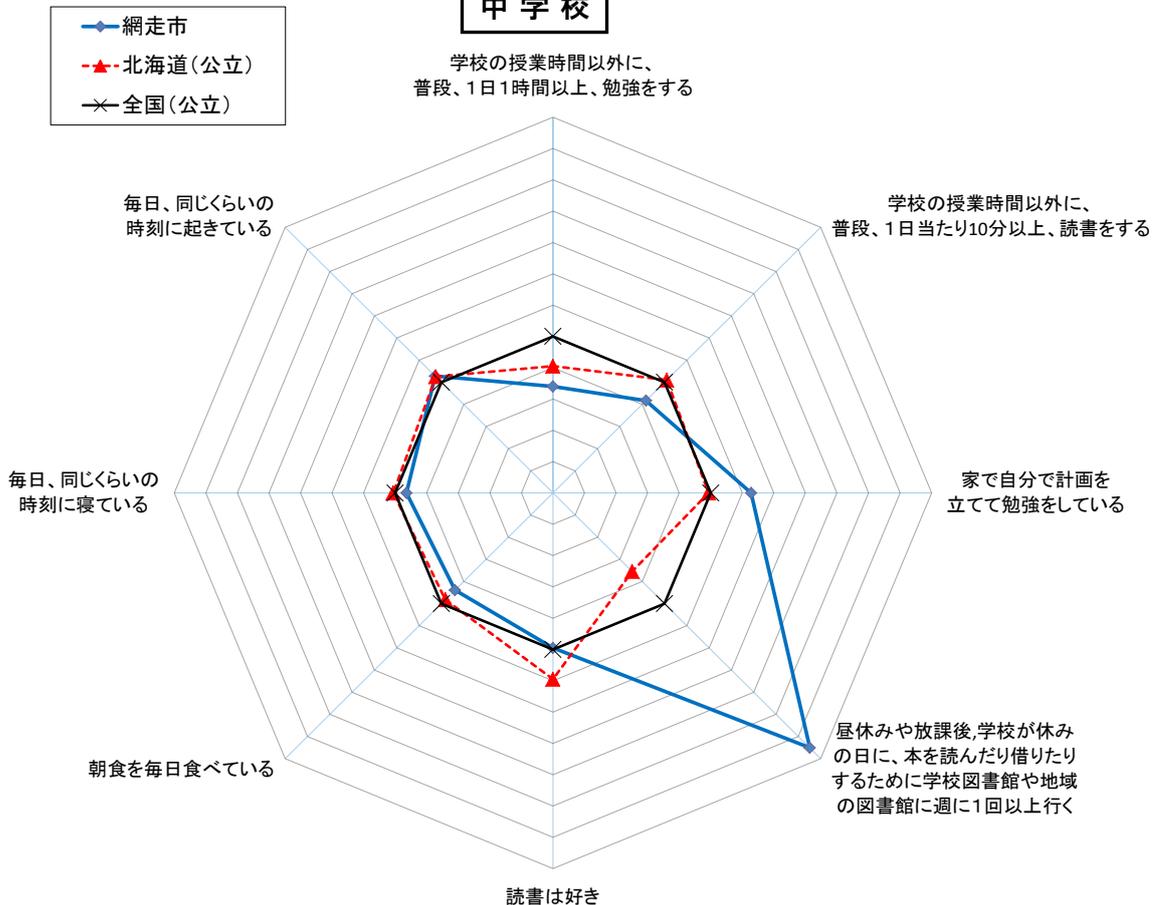
(6) 児童生徒質問紙調査の状況 (レーダーチャート)

《 学習習慣 ・ 生活習慣 》

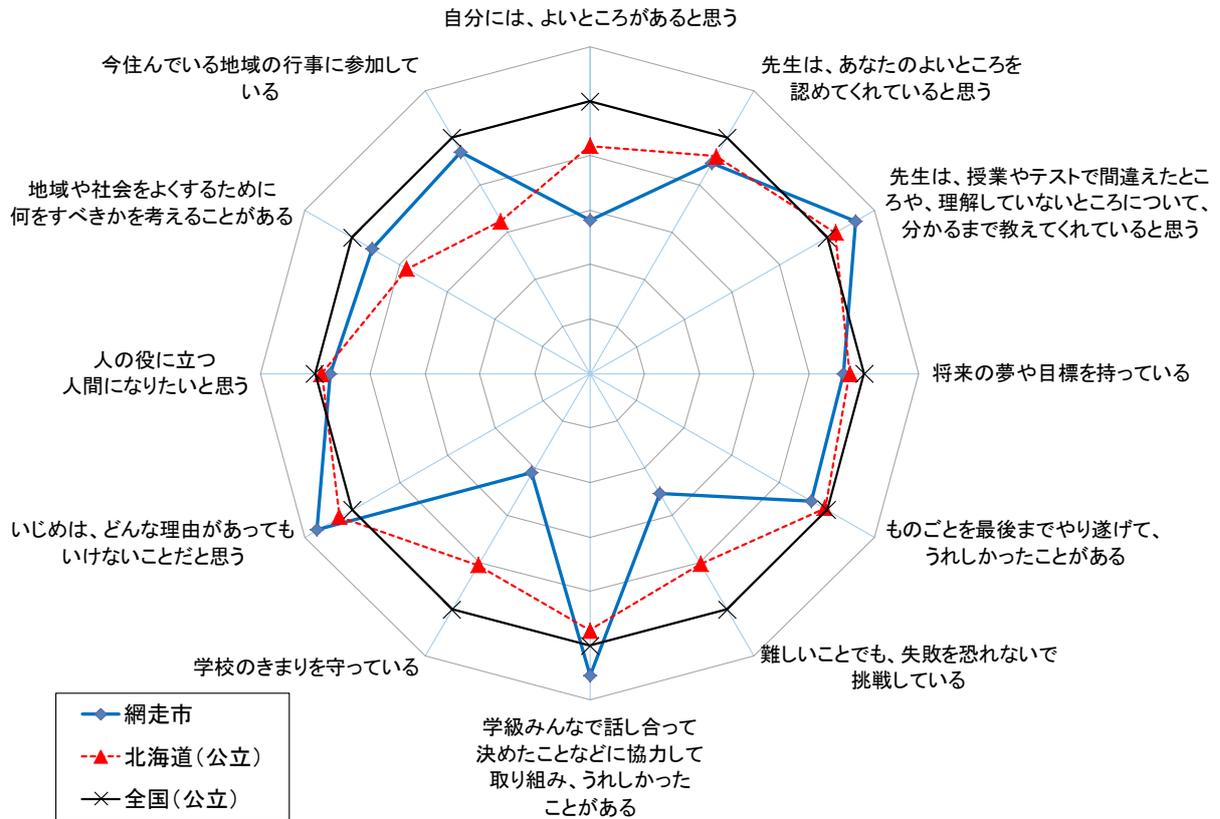
小学校



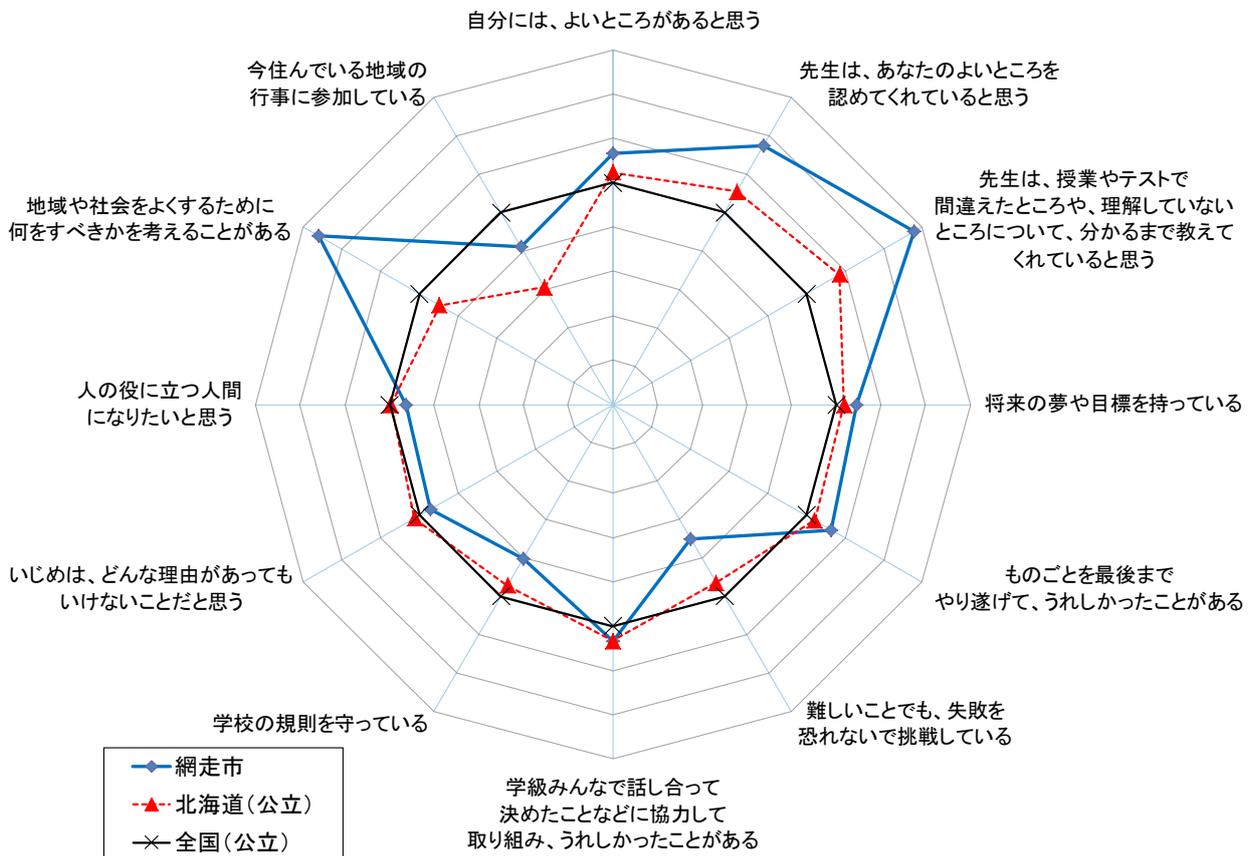
中学校



小学校



中学校



3. 教科に関する調査

○小学校 国語

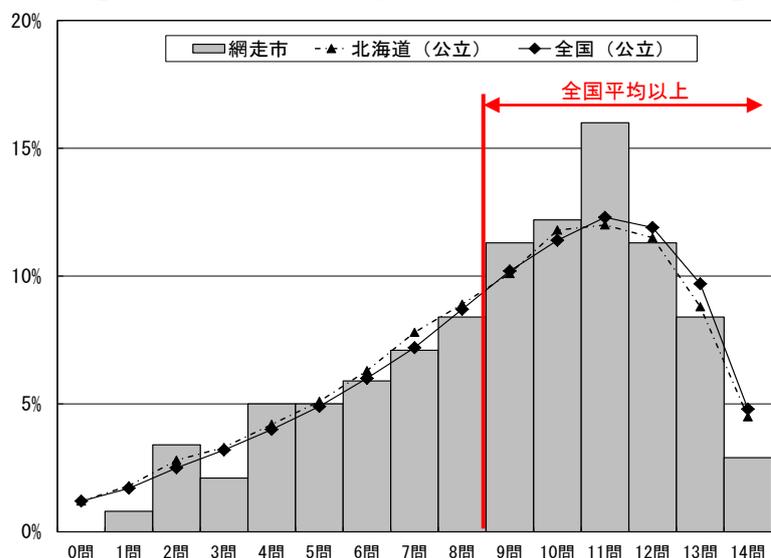
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
	全体	14	64.1	62.8	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4	71.0	72.3
	書くこと	3	56.0	52.7	54.5
	読むこと	3	83.8	81.2	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	52.3	52.9	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	57.6	56.6	57.6
	話す・聞く能力	3	72.4	71.0	72.3
	書く能力	3	56.0	52.7	54.5
	読む能力	3	83.8	81.2	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	52.3	52.9	53.5
問題形式	選択式	7	76.5	74.0	75.1
	短答式	4	47.5	48.0	48.7
	記述式	3	57.6	56.6	57.6

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			従来の区分		問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市
正答率が高かった問題(上位3問)																			
2二	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む			5・6イ				○		○	○	○			90.3	88.5	1.8	1.7	4.2
1四(1)イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○	○	○		83.6	69.4	14.2	7.6	12.1
2一(1)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む			5・6ウ				○		○	○	○		82.8	80.7	2.1	0.0	1.4	
正答率が低かった問題(下位3問)																			
1四(1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○	○	○		38.2	41.9	-3.7	12.2	8.2
1三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く			5・6ウ			○	○			○	○	○		26.5	28.8	-2.3	2.9	3.8
1四(1)ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○	○	○		19.3	35.6	-16.3	9.7	4.9

【小学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は、+0.3ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中9問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、3領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国を上回り、「短答式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が9問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 60.3%
 網走 ~ 62.1%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○小学校 算数

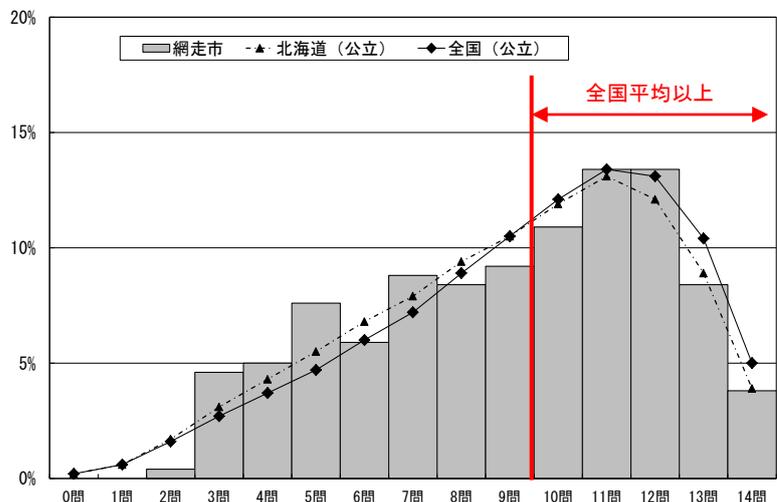
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	64.3	64.5	66.6
学習指導要領の領域	数と計算	7	59.4	60.6	63.2
	量と測定	3	50.3	50.2	52.9
	図形	2	79.6	76.0	76.7
	数量関係	7	64.8	65.7	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	59.2	60.2	62.2
	数量や図形についての技能	4	72.5	72.0	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	68.5	66.7	70.1
問題形式	選択式	5	75.8	73.9	75.7
	短答式	5	68.3	70.5	72.8
	記述式	4	45.1	45.2	47.4

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				従来の区分		問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)		
正答率が高かった問題(上位3問)																					
2(1)	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる				3(3)ア		○	○	○	○							96.2	95.2	1.0	0.0	0.2
1(1)	台形について理解している				4(1)アイ		○	○	○	○							92.0	93.1	-1.1	0.0	0.1
3(1)	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	3(2)イウ				○							○				79.0	81.8	-2.8	0.4	0.9
正答率が低かった問題(下位3問)																					
3(4)	示された除法の式の意味を理解している	5(3)アイウ			3(1)		○	○	○	○							45.0	47.0	-2.0	2.5	2.2
1(3)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる				5(1)ア	○							○				43.7	43.9	-0.2	4.6	6.7
3(2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	3(2)ウ 4(3)エ				○							○				29.4	31.1	-1.7	12.2	10.8

【小学校算数の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-2.3ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中2問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、1領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国を上回り、「記述式」「短答式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 54.0%
 網走 ~ 49.9%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

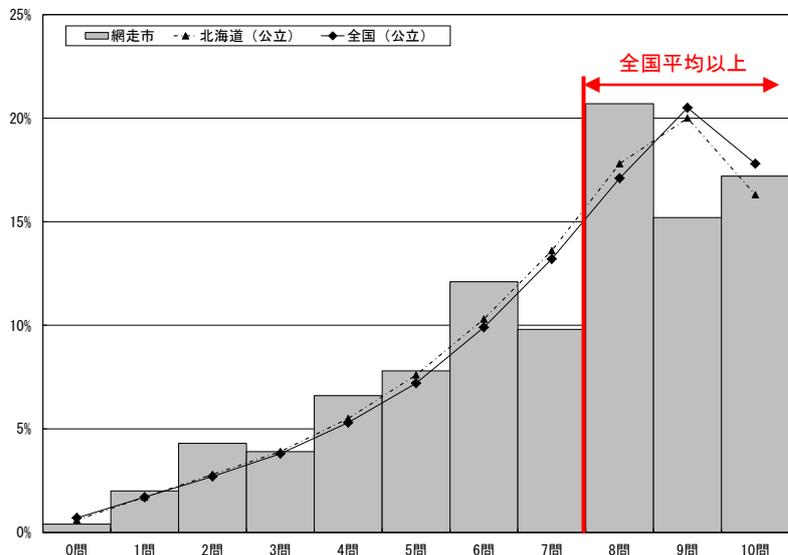


○中学校 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
	全体	10	70.4	72.1	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	68.2	69.4	70.2
	書くこと	2	79.1	81.1	82.6
	読むこと	3	68.2	71.2	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	68.0	68.6	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	71.4	74.4	76.5
	話す・聞く能力	3	68.2	69.4	70.2
	書く能力	2	79.1	81.1	82.6
	読む能力	3	68.2	71.2	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	68.0	68.6	67.7
問題形式	選択式	6	72.0	73.6	73.6
	短答式	1	57.4	56.9	56.8
	記述式	3	71.4	74.4	76.5

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「活用」に関する問題	「知識」に関する問題	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市
正答率が高かった問題(上位3問)																			
1三	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ		1オ			○	○			○		○			88.7	91.2	-2.5	3.5	1.7
3一	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する		2エ				○			○	○	○			86.3	87.4	-1.1	0.4	0.4
2一	話し合いの話題や方向を捉える		1オ			○				○	○	○			82.8	80.4	2.4	0.4	0.2
正答率が低かった問題(下位3問)																			
1二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える		1イ					○		○	○	○			57.4	61.5	-4.1	0.0	0.1
1四	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア						○	○	○	○		57.4	56.8	0.6	6.6	5.6
2三	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ		1オ			○	○					○			53.5	60.4	-6.9	11.3	8.9

【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】



【中学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-2.4ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は10問中2問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、1領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「短答式」で全国を上回り、「選択式」「記述式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が8問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 55.4%
 網走 ~ 53.1%

○中学校 数学

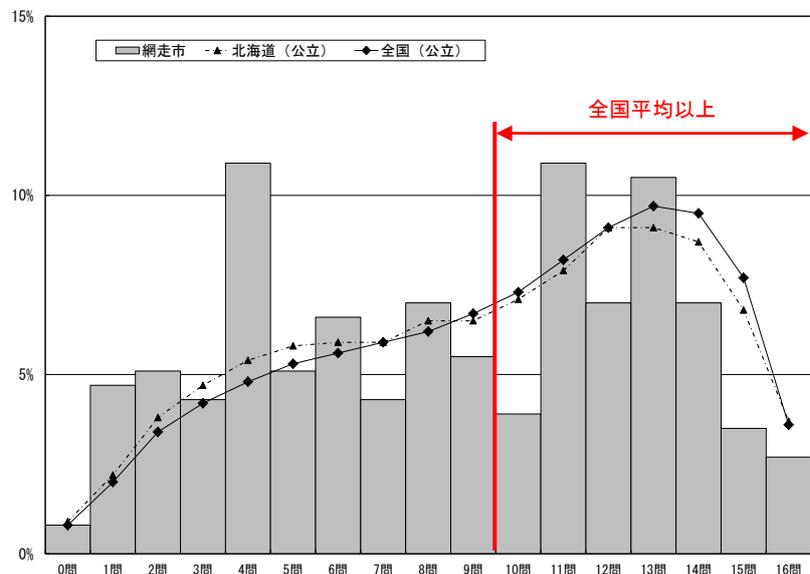
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		16	53.0	58.1	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	54.7	62.1	63.8
	図形	4	65.7	71.2	72.4
	関数	3	33.2	38.8	40.8
	資料の活用	4	53.0	54.6	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	8	43.7	48.8	51.0
	数学的な技能	3	55.9	62.0	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	66.2	70.8	71.3
問題形式	選択式	5	53.3	59.3	60.3
	短答式	7	59.7	64.9	66.6
	記述式	4	41.0	44.9	47.1

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				従来の区分	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解		「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)	
正答率が高かった問題(上位3問)																					
3	平行移動の意味を理解している		1(1) イ														78.5	83.6	-5.1	1.2	0.7
7(2)	反例の意味を理解している		2(2) イ														68.8	77.2	-8.4	0.4	0.5
7(1)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2) ア														68.4	75.8	-7.4	9.8	5.2
正答率が低かった問題(下位3問)																					
4	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる		1(1) エ														40.6	48.9	-8.3	11.7	10.4
6(1)	グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる		2(1) イ、エ														32.4	38.8	-6.4	0.4	0.3
6(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		2(1) イ、エ														26.6	34.7	-8.1	20.3	11.6

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

【中学校数学Bの概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-6.8ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は16問中1問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 55.1%
網走 ~ 45.5%

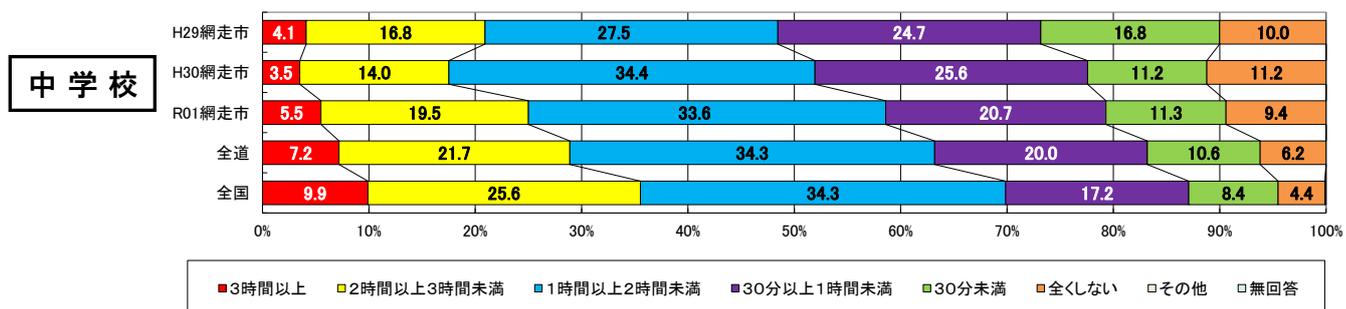
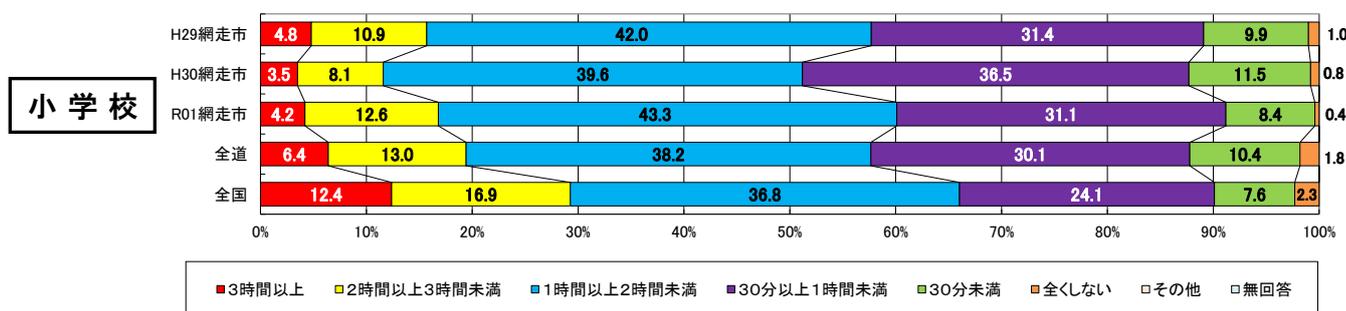


4. 児童生徒質問紙調査

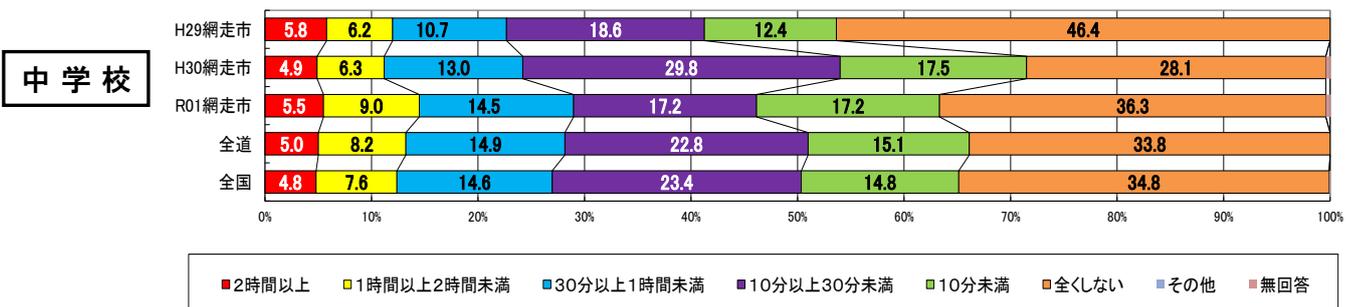
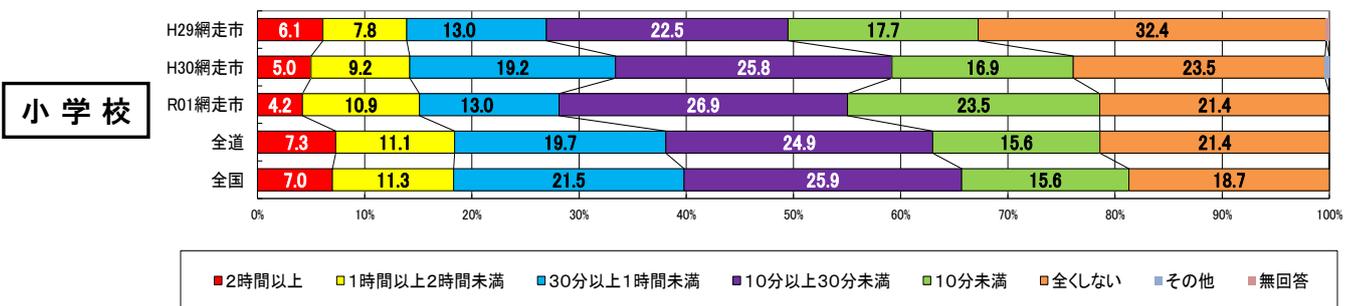
(1) 学習習慣・読書習慣の概要

- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強している」は、小学校、中学校ともに全国より低い傾向を示しているが、小学校、中学校ともに、「1時間以上勉強している」割合が改善の傾向にある。中学校は、「全くしない」割合が全国より高い傾向が続いている。
- 中学校は、「学校の宿題をしている」に比べ、「授業の予習・復習をしている」が全国より低い傾向を示している。
- 「学校の授業時間以外で読書をする時間」は、小学校では「30分以上読書をする」割合が全国より低い傾向を示している。中学校では、「全くしない」割合が全国より高い（読書をしていない）傾向を示している。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」



○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」

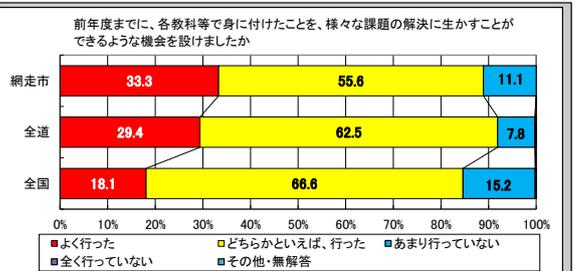
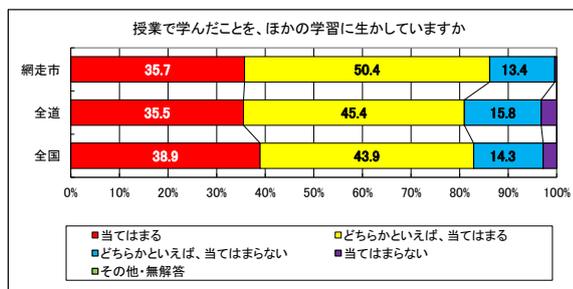
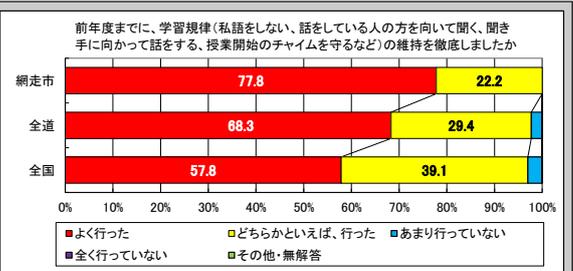
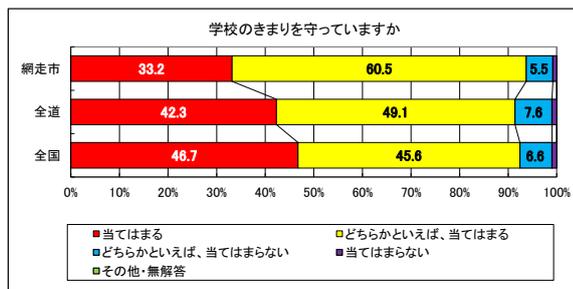
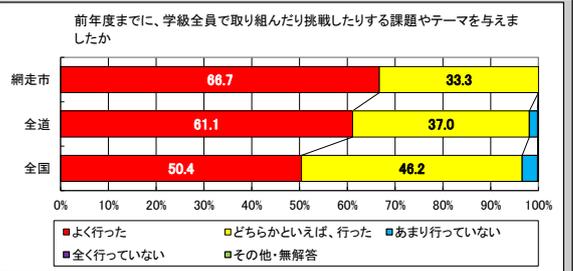
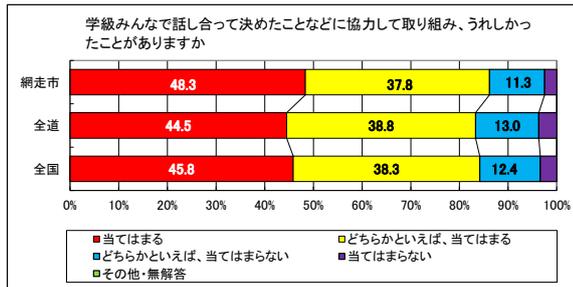
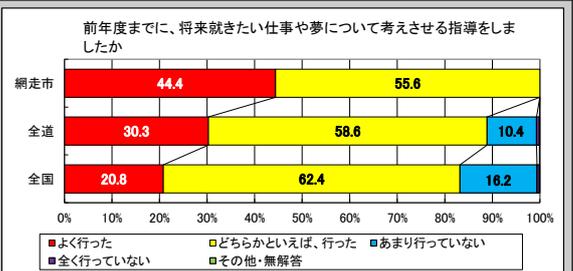
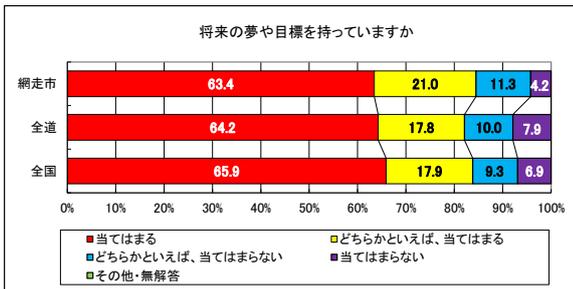
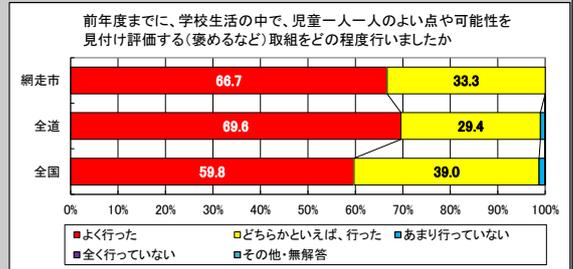
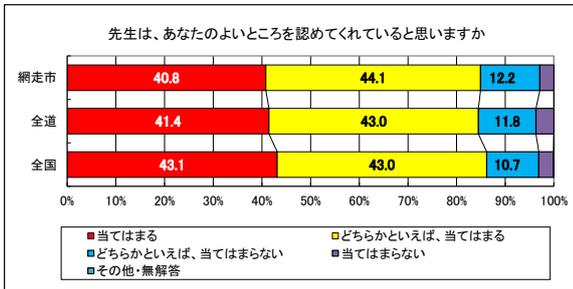


(2) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

小学校

児童質問紙

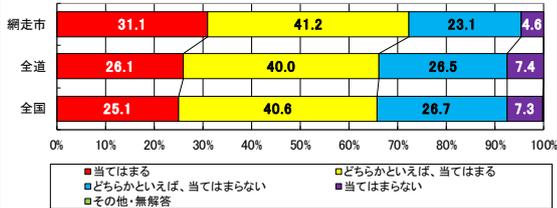
学校質問紙



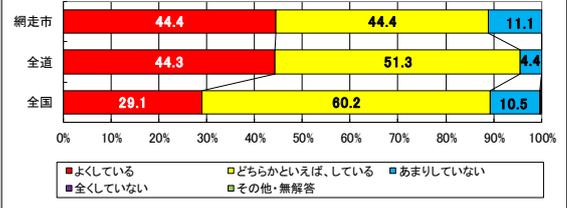
児童質問紙

学校質問紙

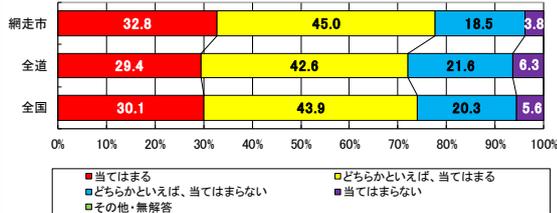
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか



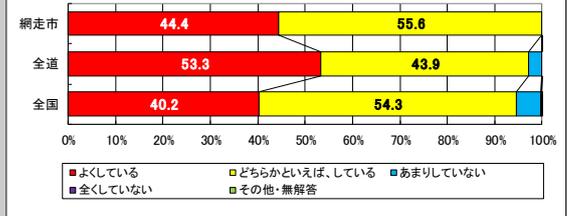
総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしていますか



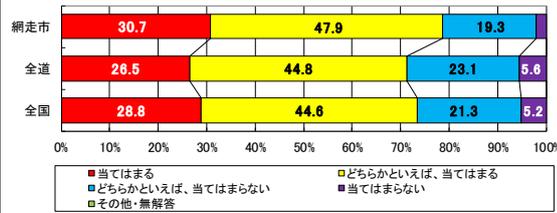
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか



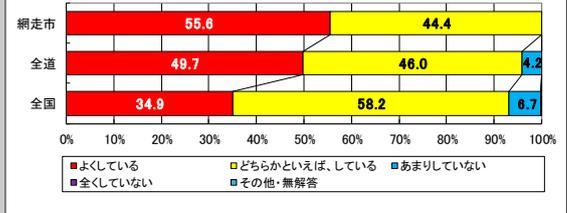
学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか



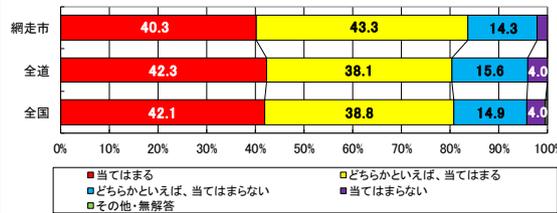
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか



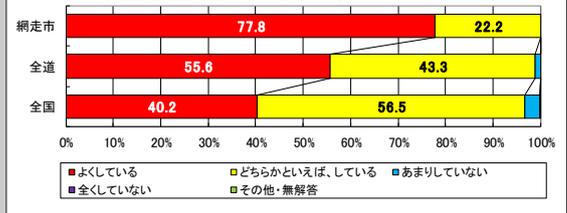
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか



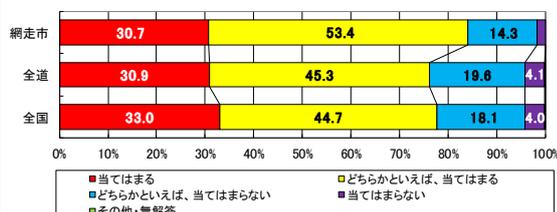
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



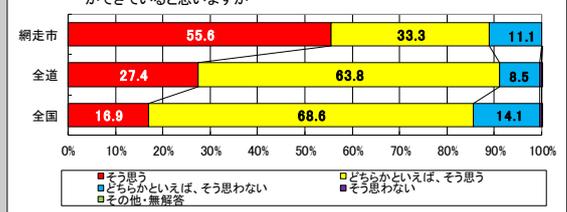
特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



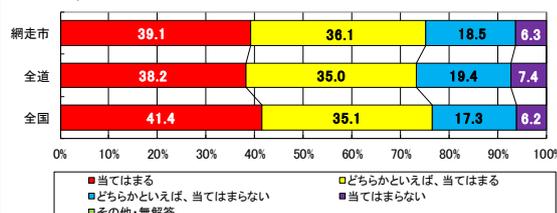
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



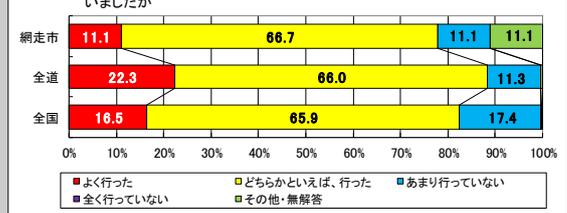
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



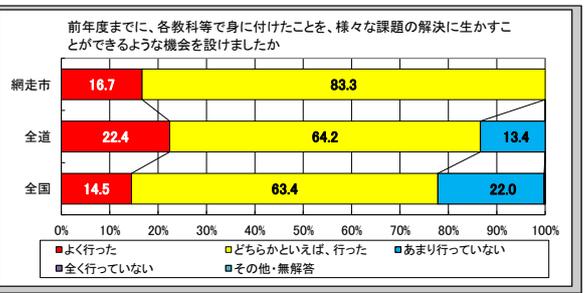
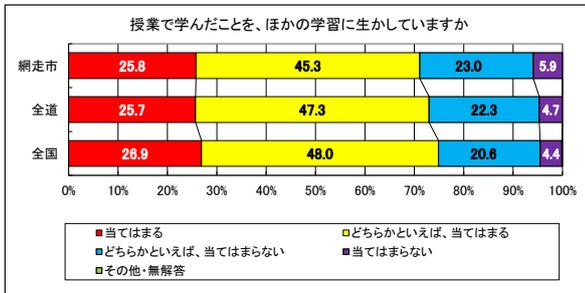
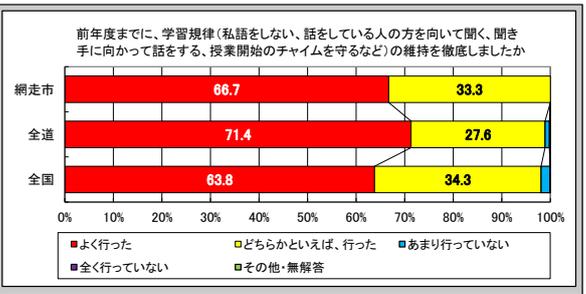
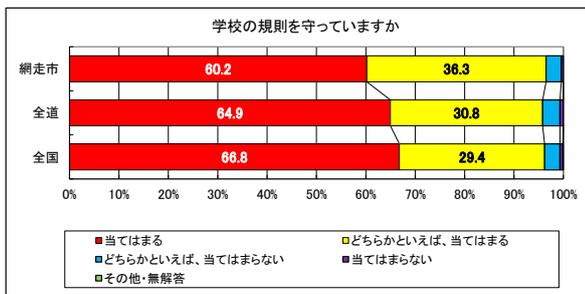
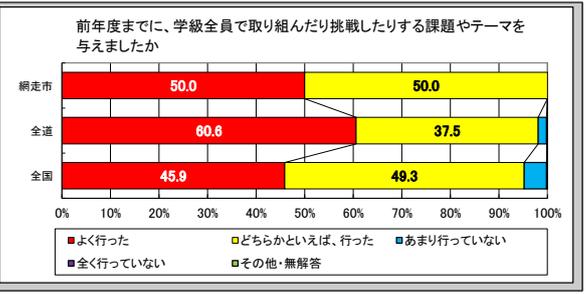
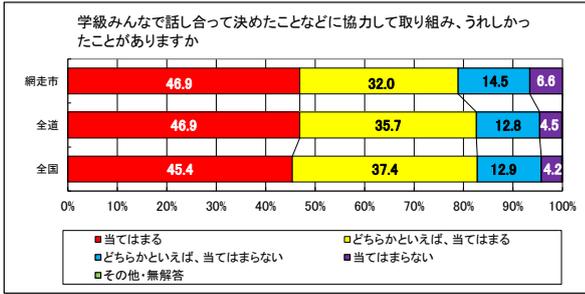
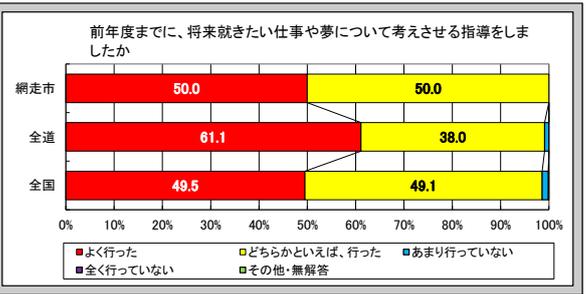
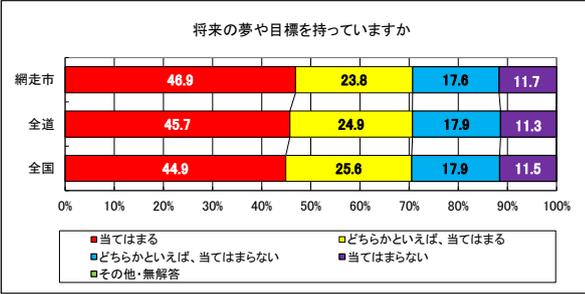
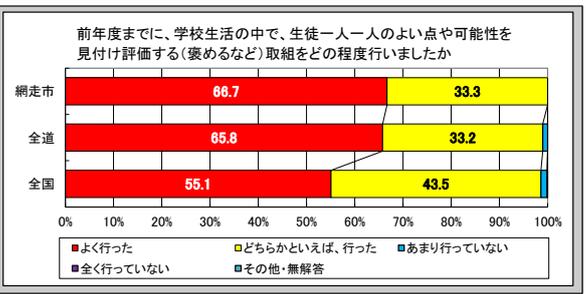
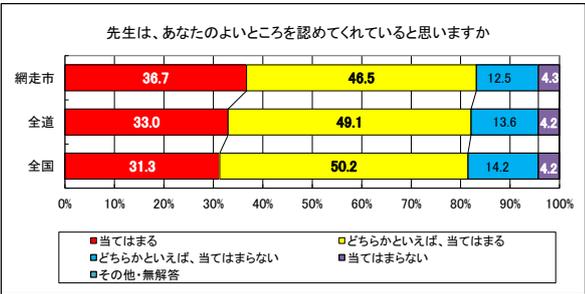
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



中学校

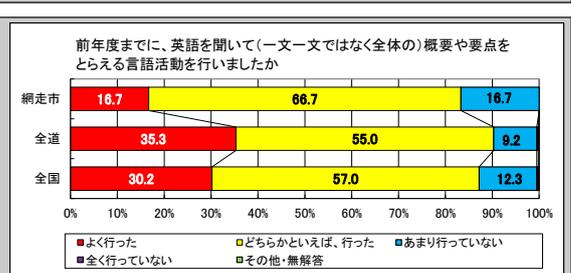
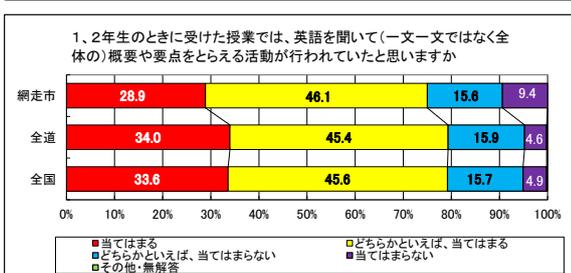
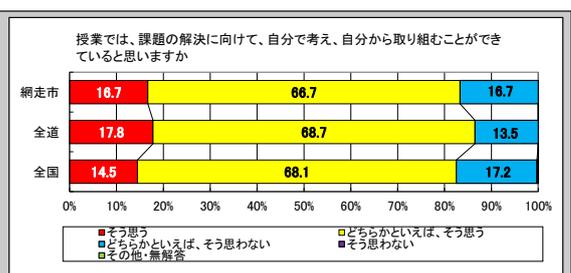
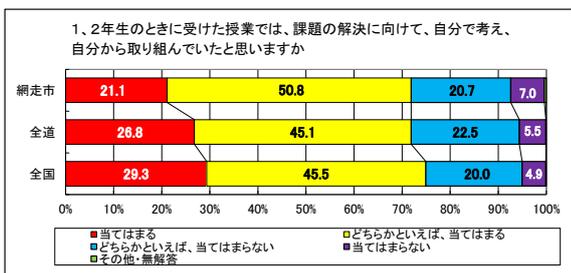
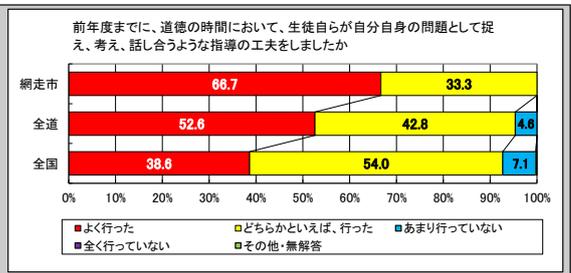
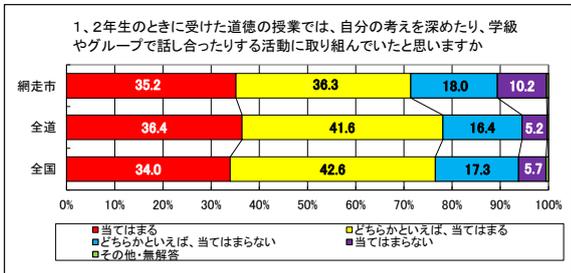
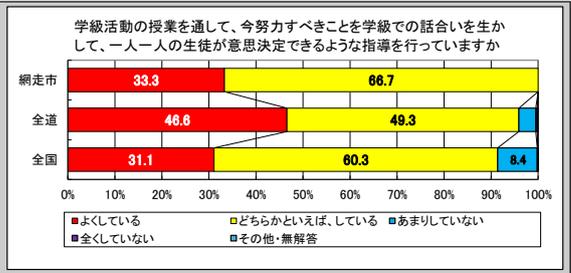
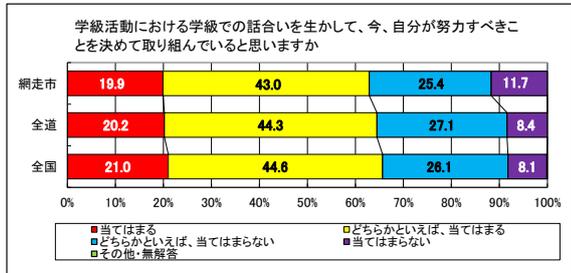
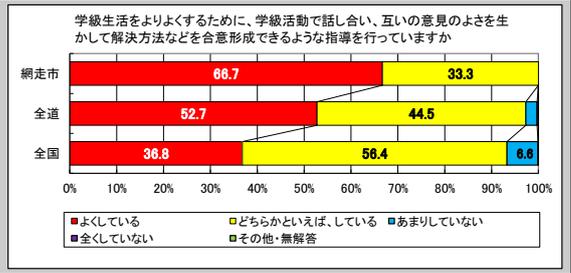
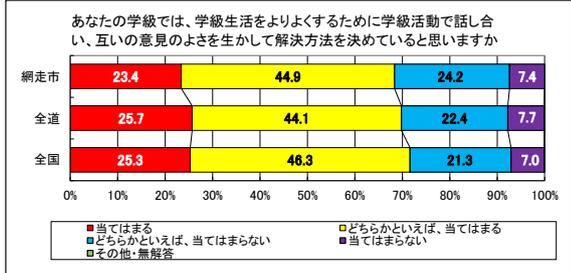
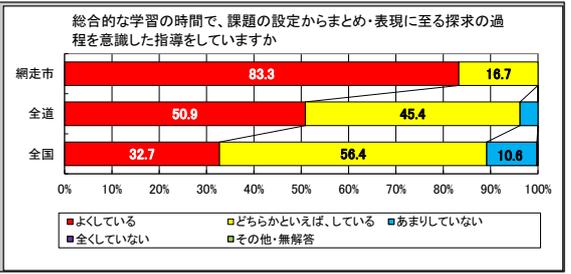
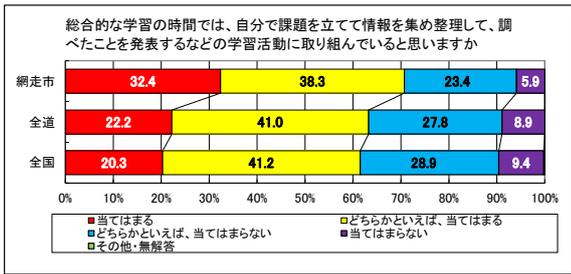
生徒質問紙

学校質問紙



生徒質問紙

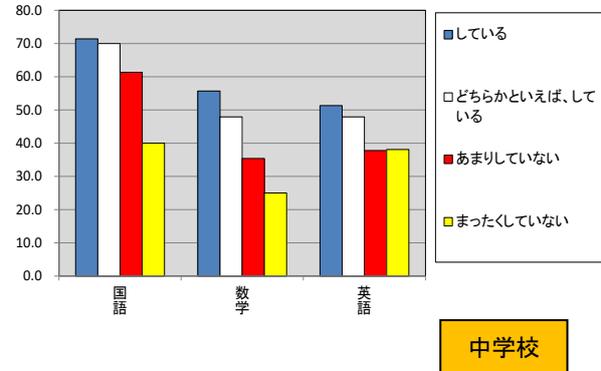
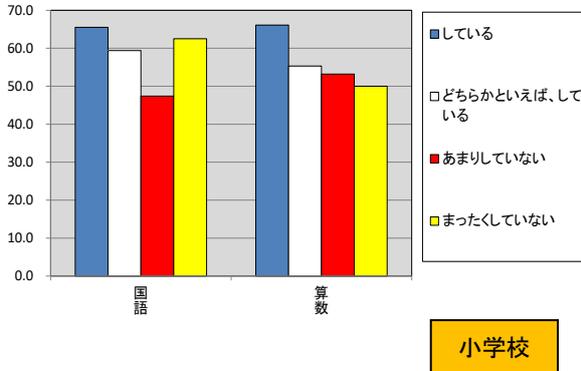
学校質問紙



5. 質問紙調査と平均正答率の相関

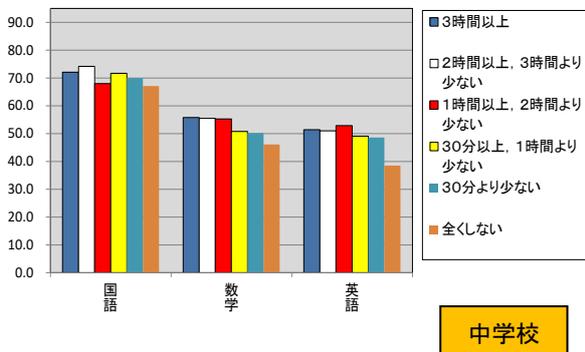
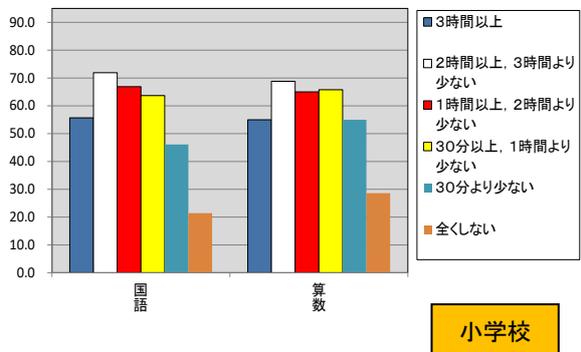
(1) 「朝食を毎日食べている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



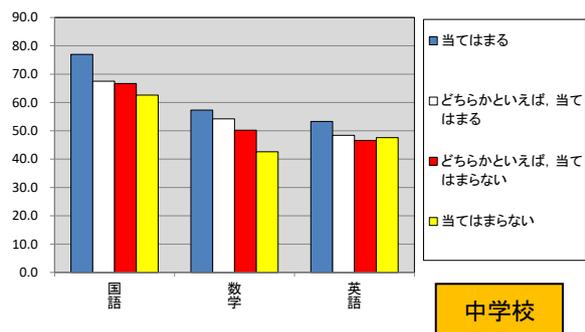
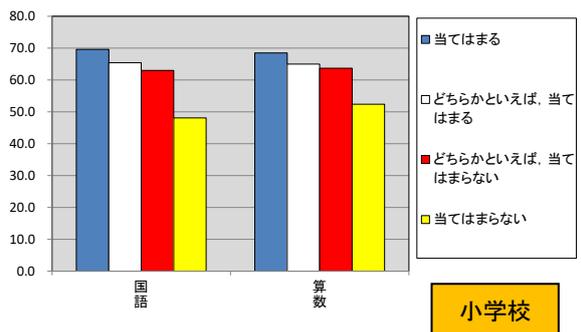
(2) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」と正答率の相関

「学校の授業時間以外に勉強をする時間が長い」児童生徒の方が、「学校の授業時間以外に勉強をする時間が短い」児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。

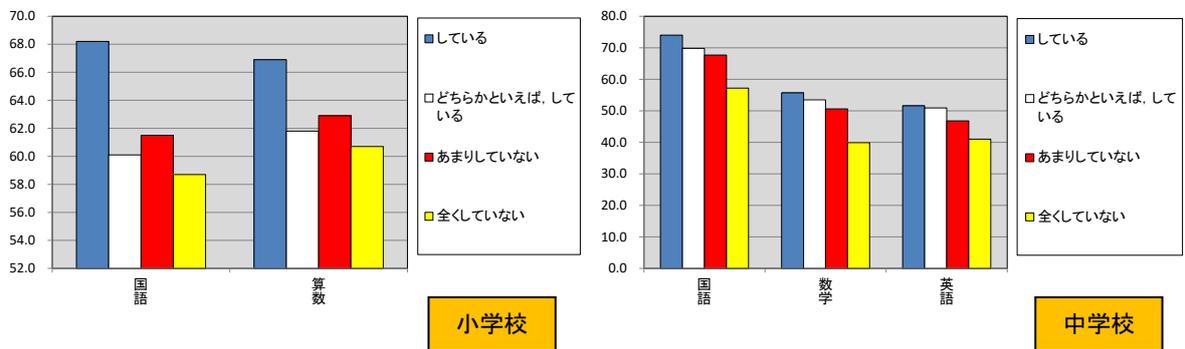


(3) 「読書は好きか」と正答率の相関

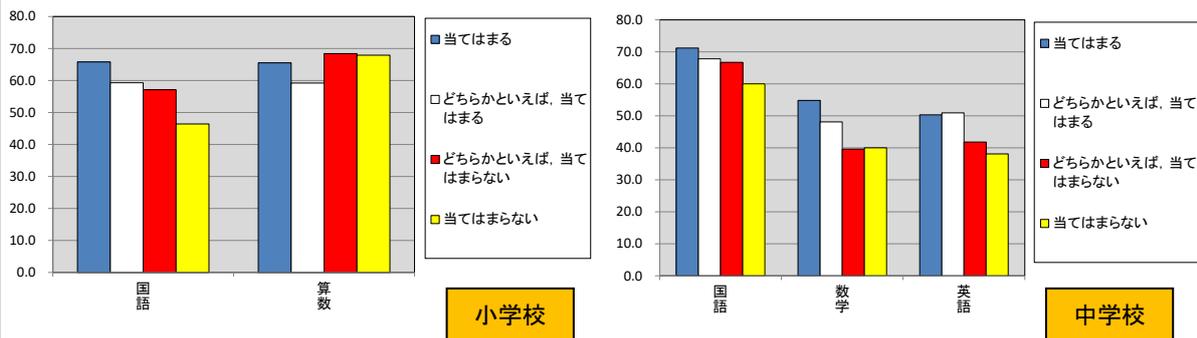
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



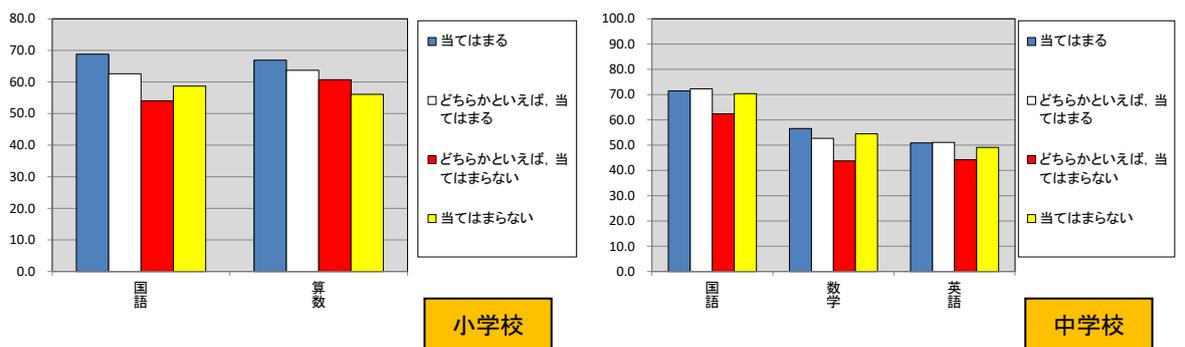
(4) 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている」と正答率の相関
 「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒は、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(5) 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と正答率の相関
 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(6) 「学校に行くのは楽しい」と正答率の相関
 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



6. 調査結果における課題と改善のポイント

(1) 学校での組織的な取組〔▲改善を要する点 ◆改善のポイント〕

【学習状況調査の結果から】

- ▲小学校、中学校ともに正答数が少ない児童生徒の割合が、全道・全国より高い。中学校は、正答数0～2問の割合が高い。
- ▲正答率が低い問題は、無解答率が全国に比べ高い。
- ▲経年比較で見ると、国語、算数・数学、英語ともに記述式で解答する問題の正答率が低い傾向にある。記述式は、無解答率が高い傾向にある。
- ▲経年比較で見ると、国語に比べ、算数・数学の正答率が全国に比べ低い傾向がある。

- ◆個々の学習の状況を把握し、少人数指導、習熟度別学習などによりきめ細かな指導を行う。
- ◆長期休業中や放課後に補充学習を行ったり、朝学習の時間を設定したりするなど、学習内容の定着を図る。
- ◆個々の学習状況に応じて、発展的な問題にも積極的に取り組ませる。
- ◆授業の中に、学習のめあてを示したり、まとめたりする学習を位置付けるなど、「見通す」「振り返る」学習活動を確実に行う。
- ◆授業の中で、自分の考えを書く活動を設定するとともに、書いたことを交流したり、発表したりする場面を設定する。
- ◆授業や特別活動の中で、自分の考えを深めたり広げたりさせることを意図した話し合い活動を設定する。
- ◆授業の中で、目的や相手を意識した発表の機会を設定するとともに、発表の仕方について指導する。
- ◆話し方、聞き方、書き方などの指導について、系統性のある取組を学校全体で実施する。

【児童生徒・学校質問紙調査から】

- ▲授業時間以外に、1日当たり読書をする時間は改善の傾向が見られるが、10分以上読書をする割合は全国より短い。

- ◆低学年から本に触れる機会が多く設定されるよう読書指導に関わる全体計画(カリキュラム)を作成する。
- ◆朝読書など、全校一斉読書の時間を設定することにより、読書の機会を設ける。
- ◆学校図書館の活用の仕方についての指導の充実を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校のきまり(規則)を「守っていると思う」児童生徒の割合が全国より低い。

- ◆道徳教育や特別活動(学校行事)、キャリア教育の充実をはかり、規範意識や自尊意識の向上を図るとともに、物事をやり抜くことで達成感や満足感を味わわせる。
- ◆できた、わかった喜びを味わわせる指導の工夫を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国より低い。
- ▲中学校では、「全くしない」と回答する割合が全国より高い傾向がある。

- ◆家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えることで、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ◆生活リズムチェックシートを活用するなど、1日の学習時間を継続して記録し、意識化を図る
- ◆家庭学習の出し方について教職員で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行う。

(2) 家庭での取組

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲1日当たり、「全く勉強をしない」と回答する割合を0にする必要がある。
- ▲授業時間以外に、1日当たり30分以上読書をする児童生徒を増やす必要がある。
- ▲学校のきまり（規則）を守っていると思う児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「自分にはよいところがある」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。

①子どもの生活リズムを整えましょう

- 生活リズムチェックシートを活用し、子どもが自ら生活を記録する習慣化を図りましょう。
- 起床時刻、就寝時刻が不規則にならないようにしましょう。朝ごはんをしっかり食べてみましょう。（早寝早起き朝ごはん）

②家庭でのルールや目安を決め、しっかり守るよう子どもと約束をしましょう。

- 家庭学習は、【小学校】学年×10分+10分、【中学校】学年×1時間+10分を目標に取り組みましょう。
- テレビ、DVDの視聴時間、ゲームの時間を少なくしましょう。
- 家庭で読書をする時間を設けましょう。
- 携帯電話（スマートフォン）、SNS、メール、インターネットなどは、使用できる時間などのきまりを設けましょう。

③家の中に、勉強ができる環境を作りましょう。

- 新聞やニュースを見る、地図や地球儀を身近に準備するなど、社会に興味を持たせるような準備をしましょう。

④学校での出来事について話を聞く時間を作りましょう。励ましやほめることを大切にしましょう。

⑤子どもが何かに挑戦した時には、結果ではなく、行動したことやプロセスをほめてあげましょう。

⑥地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的に活用させたり、網走のよさにふれる時間をつくりましょう。

◀ 全国より高い傾向を示した項目 ▶

■小 学 校■

- ・自分で計画を立てて勉強をしている
- ・住んでいる地域の行事に参加している
- ・日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ・国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う

■中 学 校■

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている
- ・自分で計画を立てて勉強をしている
- ・住んでいる地域の行事に参加している
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

(3) 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていくものと、新たに取り組むものです。

1 教職員の指導力を高めるために、教職員研修の充実を図ります

- (1) 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- (2) 市内すべての学校で公開研究会を実施するとともに、網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- (3) 教職員の授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を複数回要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- (4) 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校、連携校の取組を支援するとともに、効果のある実践指定校の取組を普及させ、教職員の資質の向上を図ります
- (5) 「網走市学力向上フォーラム」の開催や、先進地への視察研修など、網走市学力向上推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。
- (6) 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市学力向上推進委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

2 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります

- (1) 学習内容をより分かりやすく伝えるためのICT機器（実物投影機、大型TV、タブレット端末等）を整備するとともに、ICT機器の活用に関わる研修会を開催します。
- (2) 学校図書館司書の配置や学校図書の本数の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の充実を図ります。
- (3) 海外からの英語指導助手（ALT）を複数配置し、小学校段階からの英語教育、国際理解教育の充実を図ります。

3 子どもたちに自ら学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力の定着を図ります

- (1) 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- (2) 子どもたち一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- (3) 学び方に関する「全校共通指導事項」の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- (4) 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・ゲームの時間の見直しなど、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ります。
- (5) 小学校から中学校への円滑な接続、中1ギャップ未然防止のために、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- (6) 東京農業大学との連携による、「長期休業中の学習サポート」「学習サポート事業（あばしり寺子屋）」を推進します。

4 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるタグラグビー教室などのスポーツ教室を開催します。また、教育長杯タグラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携による、「子ども体力づくりサポート」や「体育授業改善研修会」を実施します。

5 特別支援教育の充実を図ります

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

6 思いやりを大切に、豊かな心や地域を愛する心を育みます

- (1) 道徳教育推進校における教育講演会の開催、地域・保護者への積極的な道徳の時間の公開など、道徳教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、子どもが主体的に取り組むいじめ防止の取組を推進するなど、心の教育の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 「網走市読書感想文コンクール」の実施、家読（うちどく）や朝読書の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。

7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進します。
- (2) 地域、保護者とともにある学校を目指し、「オープンスクール」の実施や「網走市学校支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 小中学生と地域の高校、大学との交流を推進し、子どもたちの新たな興味や関心を引き出す様々な体験学習等の充実を図ります。
- (4) 心身ともに健やかな子どもを育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (5) ネットトラブルの未然防止を図るために、学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。